各位

平成２７年１２月１８日

岩手大学農学部　共同獣医学科
准教授　選考委員会
委員長　宇塚 雄次

臨床獣医学分野小動物外科学准教授候補者の公募期間の延長について

謹啓

晩秋の、時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
本学農学部では下記の通り准教授候補者を公募しておりましたが、このたび公募期間を延長することとなりました。つきましては、貴機関に適当な候補者がおられましたなら、応募くださるよう周知方ご高配を賜りたくお願い申し上げます。
なお、貴機関以外の方でも適任と思われる方がおられましたならば、ご推挙いただければ幸甚に存じます。

謹白

記

１．公募する教員の職名及び人数
臨床獣医学分野　小動物外科学　准教授　１名

２．分野の概要及び職務の内容
臨床獣医学分野は、小動物臨床獣医学分野と産業動物獣医学分野からなり、小動物臨床獣医学分野は小動物病態診断学、小動物病態内科学、小動物外科学及び画像診断学の４つの教育分野から構成されています。今回の公募は、小動物外科学を担当する准教授を充足するためのものです。
主たる担当科目は、外科学総論、麻酔学・手術学、軟部外科学、腫瘍学、小動物外科学実習・基礎編、小動物外科学実習・応用編、画像診断学実習並びに総合参加型臨床実習で、これらの科目を同分野の教員と連携して担当します。また、全学共通教育科目の一部も担当します。

３．選考方針
今回の公募にあたっては、次の諸項を満たす人物が望まれます。
１）　人格・識見に優れ、学部学生及び大学院生の教育・研究指導並びに地域貢献に意欲のある者
２）　博士の学位を有し、小動物外科学に関する広範な知識と研究能力を備え、優れた研究業績を上げている者
３）　日本国の獣医師免許を有し、附属動物病院における診療業務、特に小動物外科系診療に参画できる者

岩手大学は男女共同参画を推進しています。
業績及び資格等に関わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。
産前産後休暇、育児休業及び介護休業を取得していた場合（性別は問わない）には、選考の過程で考慮します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については岩手大学ホームページ（www.iwate-u.ac.jp/gender/）をご覧ください。

４．提出書類

１）履歴書　　１部（写真貼、署名、捺印のあるもの。E メールアドレスも記載してください）
２）研究業績目録　　１部（様式は別紙又は岩手大学ホームページを参照ください）
３）主要論文別刷　　１０編以内
４）教育研究に対する抱負　１部（１，０００字程度）
５）推薦者がある場合は推薦状、あるいは人物照会が可能な方の連絡先（様式自由）

５．面接

選考過程において応募者の来訪を求め、面接などを実施することがあります。その際の旅費等の経費は自己負担になります。

６．提出期限

平成２８年１月１５日（金）　必着

７．採用予定日

平成２８年４月１日（金）

８．提出先（問い合わせ先）

〒020-8550
岩手県盛岡市上田三丁目 18-8
岩手大学農学部共同獣医学科
准教授選考委員会
委員長　宇塚 雄次
Tel&Fax: 019-621-6265
e-mail: ujiiwa@iwate-u.ac.jp

教員応募書類在中と朱書きし、簡易書留で郵送してください。
なお、応募書類は原則として返却いたしません。

以上

「研究業績」の作成について（２００７．４）

農学部教員人事委員会

研究業績は、Ａ４判の用紙に　A.著書・訳書、B.学位論文、C.総説・論説、D.原著論文（a)学術雑誌*1　、(b)紀要*2　、(c)プロシーディングス、E．その他*3　、F．報告書・事業報告書等*4　、G．特許・設計等、H.国際学会発表*5、Ｉ．国内学会発表*5の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C．原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約３ｃｍに設定し、１行３５～４０字で４０行程度（日本文の場合フォントのサイズは１０．５～１２程度）にしてください。

＊１：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。

＊２：試験場報告、研究所報告等を含む。

＊３：商業雑誌、資料等を記載する。

＊４：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。

＊５：最近５ヵ年について記載する。(教授選考の場合、Ｉ．国内学会発表は不要)

＊６：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。

＊７：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。

１．Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)

＊８：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。

＊９：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。

＊10：Journal は略記する。

＊11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする 。

〈記載例〉

研　　究　　業　　績　　（著書・学術論文等）

Ａ．著書・訳書

１．岩手一郎（単著）(1990)
農学について．○○出版社，東京，100p.

２．岩手一郎（分担執筆）(1991)
北上山地における畜産業，「岩手の農業」(大学太郎，学部一郎編)，△△堂，盛岡，pp.10-20.

３．岩手一郎（分担翻訳）(1992)

トウモロコシ,「アメリカの農業」(A.B.Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp.20-30.

４．Iwate, I. and Morioka, J. （分担執筆）(1993)
Agriculture in Japan, “Agricultural Sciences”(Eds.: D. E. F. Green and H.I.James), Bio Press,London, pp.20-30.

Ｂ．学位論文

１．岩手一郎（1980）
ＸＹＺに関する研究.［◇◇学修士または修士（◇◇学）　○○大学］

２．岩手一郎（1983）
ＡＢＣに関する研究.［◇◇学博士または博士（◇◇学）　○○大学］

Ｃ．総説・論説

１．岩手一郎（1994）
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然　№3：1-5.

２．岩手一郎, 盛岡次郎（1995）
岩手山の植物分布. 岩手植物誌　15：215-220.

Ｄ．原著論文

（ａ）学術雑誌

１．岩手一郎（1985）
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌　5：15-20.

２．Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. （1986）
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J.Anim. Sci. 20：100-105.

３．Iwate, I. （1990）
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25：15-20.

（ｂ）紀要

１．岩手一郎（1985）
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報　17：30-40.

（ｃ）プロシーディングス

１．Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

Ｅ．その他

１．盛岡次郎，岩手一郎（1990）

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査．野生動物　№125：pp.35-45.

Ｆ．報告書・事業報告書等

１．盛岡次郎，岩手一郎（1993）

イヌワシのＰＣＢ汚染．自然動物調査報告（△△県），pp.10-11.

Ｇ．特許・設計等

１．盛岡次郎，岩手一郎（1993）

イヌワシ捕獲装置　特許第　1234567 号

Ｈ．国際学会発表（最近５か年）

１．Morioka, J. and Iwate, I.　(1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

Ｉ．国内学会発表（最近５か年）

１．岩手一郎，盛岡次郎（1997）

岩手の野生動物．第 100 回日本野生動物学会講演要旨：25-26.